



## バンク事業の活用による地域外からの担い手の参入を支援

### 「取組のポイント」

- 農地バンクが市等と連携し、新たな地域での農地確保と農地集積をサポート
- 地域の担い手として、さらなる経営の規模拡大のため法人化

### 地区の概要

阿波根地区は、市街地に近く、インゲン等の園芸作物が生産されている。農業者の高齢化で離農が進む中、農業者は、地縁・血縁の結びつきが強く、親族以外に農地を貸すことに抵抗があり、農地の遊休化が懸念されていた。

農地バンクは、糸満市（農政課）や農業委員会と連携し、農地バンクの役割やバンク事業のメリットを丁寧に説明し、バンク事業を推進している。

### 取組の内容

- ① 農地バンク（農地相談員）は、平成29年、地区外で新規就農（平成24年）した者（A氏）から、本地区の野菜栽培に適した農地の借り受けを検討したが、相対契約に対する所有者の懸念があり、借り受けることができなかったとの相談を受けた。
- ② 農地相談員は、市や農業委員会等と連携し、A氏の希望に合う農地を探索し、併せて所有者に対して、バンク事業では親族以外の面識のない者が利用する場合でも農地バンクが責任を持って農地の適正利用を確保すること、賃料は農地バンクが確実に支払うことなどのメリットを説明。この結果、A氏は、平成30年度の1筆（0.1ha）をスタートに令和5年度までに5筆（0.8ha）を借り受けることができ、現在では地域の担い手に成長。農地バンクとして、地区外の者の円滑な経営規模の拡大を支援。
- ③ A氏は、令和4年に雇用の安定化のために法人化し、7名の雇用を創出。令和5年にはエコファーマー認証を取得し、環境に配慮した農業生産を行っており、今後も、バンク事業を活用して円滑に経営規模を拡大予定。適切な営農を通して地域の信頼も得られ、令和5年に農業委員に選任。

### 取組の成果

- 農地バンクは、市や農業委員会と連携し、地域外で新規就農した者の農地確保を支援
- 経営規模の拡大も支援し、地域の担い手として成長
- 農業経営を法人化し、雇用も創出

#### 【利用者の声】

- 農地バンクのおかげで集積が進み、地域の担い手になることができた。そのおかげで受け手募集農地の情報が入ってくるようになった。
- 地域外在住の地主が多いので、農地バンクに手続きを集約することで賃貸借の支払いなどが楽になった。

#### バンク事業の農地

##### 凡例

農地バンク活用前の農地



バンク事業により集積した農地



#### 平成30年度



#### 令和5年度

